Osaka University Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 新聞報道における「明るい話題」について |
| Author(s) | 東条, 佳奈 |
| Citation | 待兼山論叢. 日本学篇. 2021, 55, p. 19-36 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/91490 |
| rights | |
| Note | |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

# 新聞報道における「明るい話題」について

東条　佳奈

キーワード：新聞／形容詞／「明るい」／「明るい話題」／言説コーパス

## 1.　はじめに

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）の拡充に伴い、書き言葉を対象にした研究においては、用例収集の際、まずBCCWJを検索してみることが基本的な姿勢になったのではないかといえる。前川（2008）は、従来、日本語のコーパスを用いた研究は新聞CD-ROMや青空文庫、国会会議録などの電子化された資料などが主に使用されていたが、これらは日本語の全体像を把握するためのものではないこと、日本語の書き言葉の縮図となる、代表性（representativeness）を確保する均衡コーパスの構築が必要であったことを述べている。このように、汎用性を志向した均衡コーパスの整備により、様々なテクストジャンルの文章を検索できるようになった現在、BCCWJに収録されているジャンルのテクストについて、敢えて単一の言語資源をコーパスとして使用する理由とはどのような点にあるだろうか。コーパスの総語数の点や、経年的な変化を見る場合、ジャンルに特有の表現を調査することなどが挙げられるが、その一つとして考えられるのが、石井（2010, 2014, 2019）が挙げる「言説コーパス」としての利用である。

石井（2010:15）は、批判的言語学の一環として、日常のありふれたことば遣いの中に潜むイデオロギー的な傾向を浮かび上がらせ、批判的に捉え直すという研究では、コーパスを、言語構造の分析のための「正しい」用例の

集合としてではなく、言語使用の批判的な分析のための「言説」の集成としてみなすことができるようになると指摘し、中でも、マスメディアによるテクストは、代表的な言説コーパスであり、新聞コーパスは新聞の言説コーパスになりうること、この場合、必ずしも代表性のある均衡コーパスにこだわる必要がないことを述べる。

そこで、本稿では、「新聞コーパス」を「新聞の言説コーパス」と捉え、新聞テクストにおける語の使用の観察を通して、日常語に潜むイデオロギー的な側面を見出すことを目的とし、その試みとして、評価性を表わす形容詞に着目し、新聞における「明るい」という形容詞の使用、とくに、「明るい話題」という句が指す内容とはどのようなものかについて分析を行った。

以降、2 節にて言説コーパスとしての新聞コーパスについて述べ、3 節では調査対象として形容詞を選択した理由、4 節にて「明るい」の意味用法の確認を行った上で、5 節では調査内容として、新聞における「明るい」が修飾する名詞の概観（5.1 節）、新聞以外の資料における用例（5.2 節）について述べたうえで、「明るい話題」についての分析（5.3節）を行う。

## 2. 「言説コーパス」としての新聞コーパスについて

石井（2010）は、言説としての新聞について、言説のあり方を反映した特徴的な言語使用が観察されるはずであること、そうした言語使用の特徴（イデオロギー的な偏り）は、新聞の言語・言説がありふれたもの、無意識に受け入れやすいものであればあるほど気づきにくいものであること、また、そうした気づきにくい言語使用の特徴を暴くところに、この問題に取り組む意義があると述べる。そして、「言説コーパス」として新聞コーパスを用いた研究事例として、石井（2004）を挙げている。

石井（2004:90）は、「一見、社会的・文化的キーワードらしくない、ごくふつうの単語」である「人々」という語について、新聞において「～の人々」という形式で使われた際に顕著な傾向を示すことを指摘している。～の部分

に入る単語として、“アジア・東アジア諸国の国名、紛争地域の国名、開発途上国、沖縄、一般・普通・無名、ホームレス、在日、（全）世界（中）”といった語が入ることが多いことから、「書き手から見て、過去に侵略して『申し訳ない』とか、紛争・貧困・被災・差別などの理由で『気の毒だ』とか、普通で名もないとか思う対象に向けて使われることが多い」と分析している。また、石井（2019）では、「人々」のこうした使用上の偏りについて、「人々」という単語に「弱者」というイデオロギー的意味が付着・定着している可能性を指摘している。加えて、このような新聞を言説コーパスと捉えた言語使用の批判的研究は、まだこれからの発展が見込めるものであると述べている。

## 3. 調査対象の選定

前節で示したように、言説コーパスの分析においては、必ずしも社会的・文化的キーワードを調査する必要はなく、むしろ、「日常のありふれたことば遣いの中に潜むイデオロギー的な傾向を浮かび上がらせ、批判的に捉え直す」ことが必要となる。そのため、本稿の調査においても、社会的・文化的キーワードにこだわらない、日常語を対象とする。

Stubbs（2002=2006）は、ごくありふれた語のコロケーションであっても、文化に関する暗示的意味を伝達することが多いことの例として、LITTLE（小さい）という語を挙げ、最も高頻度の共起語がgirlであり、little boyとは差があること、girlと共起する形容詞で最も多いものはlittleであること、littleの直前に生起する語は話者の評価を伝えることが多いこと、最も高頻度の語の一つが、文化的な固定観念を伝える場合があることなどを示している。

形容詞は、「ある基準にてらしての相対的な判断・評価を表わすという性格がつよい語」（西尾 1972:15）が多く、「話し手がどのように評価しているか」という主体的な評価を表わす性質を持つ（八亀 2008:33）と言われるよ

うに、評価性を表す語である。日本語においても、形容詞の用例を観察することで、情報の発信者であるマスメディア（新聞）が、物事をどのように捉え、評価しているのかを分析することが可能になると思われる。

形容詞のうち、本稿では、「明るい」という属性形容詞に注目することにした。「明るい」を用いた文を調査することで、どのような物事を「明るい」ものと評価しているのかについて分析する。

## 4. 形容詞「明るい」の意味・用法

西尾（1972）は、「光が十分にある（と感じられる）状態だ」ということを「あかるい」の基本的な意味（［00］）であるとし（p.434）、転じて「与えられる印象が［00］の「あかるい」と相通ずるものをもっている。あかるい感じがする」（p.446）という意味で、「人間の表情や動作のようすなどが晴れやか」であること、「未来のことに対して、希望をもつことができる状態である」ことなど、様々な意味をもつことを示し、また、派生的な意味として、「ある人が、その物事についてよく知っている。精通している。そのことに詳しい」（p.454）という意味を持つことなどを述べている。

辞書の記述においても、（1）、（2）に示す通り、西尾の記述と大きな違いはない。

（1）『岩波国語辞典　第八版』

①光が十分にさしている（それゆえ物がはっきり見える）状態だ。

②性格・表情・表現内容などが晴れ晴れしている。

ア　ほがらかだ。明朗だ。軽やかだ。

イ　陰険な所がなく公明だ。

ウ　希望や期待がもてる状態だ。

エ　色がくすんでいない。

③その物事をよく知っている。精通している。

（2）『三省堂国語辞典　第七版』

①光がじゅうぶん（でよく見える状態）だ。

②黒や灰色をふくまない。

③それから受ける感じがはれやかで、はずむような感じだ。

④かけひきやうらおもてがない。明朗だ。

⑤よくわかっているようすだ。

上記をまとめると、「明るい」は、色彩や光を表わす視覚的な意味と、心や考えの見通しなどが晴れやかかどうか、そして、その物事に精通しているかどうかという抽象的な意味に大きく分けることができる。

また、楊（2016）では、BCCWJより収集した「明るい」の装定と述定の意味的特徴および主体となる名詞について分析し、形容詞と名詞との意味的な関わりを表1のように分類している。

〈表1〉「明るい」の意味分類と主体になる名詞との対応関係

| 「明るい」の意味 | | （装定の場合の）主体 |
|---|---|---|
| 物事の属性 | 光が十分にある（と感じられる）状態だ | 空間的な場所や物体を表わす名詞 |
| | | 時間に関係のある名詞 |
| | 色が澄んでいる。黒や灰色などがまじらず鮮やかである。 | 色に関係のある名詞 |
| 人間の心理状態・性格 | 気持ち・心がはればれとして、朗らかだ | 気持ち、心、気分 |
| | 人間の表情や動作のようすなどが、楽しそうで晴れやかだ | 声、笑顔、口調、顔、表情、笑い、笑い声、調子、微笑みなど |
| | 人の性質が明朗で陽気だ | 人、性格、子、［人名］、女の子、キャラクター、女、子供など |
| 物事の与える感じ・印象 | 未来のことに対して、希望をもつことができる | 未来、希望、展望、見通し、将来、明日、生活、人生、日々 |
| | 雰囲気が堅苦しくなくて、楽しく和やかな状態や性質だ | 社会、雰囲気、世界、家庭、空気、職場、環境、言葉、地域づくり、活動 |
| | 表現内容や芸術作品などが深刻ではなくて、受け手を楽しく朗らかな気分にさそうような性質だ | 話題、ニュース、作品、映画、曲、会話、話、言葉、響き |
| | （社会的な）物事の行われ方に、不正やうしろ暗いところがなく、公平・公明だ | 選挙 |
| | 物事が好調になることを予想させる | 兆し、材料、動き |

（楊2016:110表3より一部を抜粋）

楊（2016）は、「明るい」の意味用法について、西尾（1972）をふまえ、大

枠として「物事の属性」「人間の心理状態・性格」「物事の与える感じ・印象」の3種に分けられることを述べた上で、①装定はすべての意味用法に用いられるのに対して、述定は「（社会的な）物事の行われ方に、不正やうしろ暗いところがなく、公平・公明だ」「物事が好調になることを予想させる」という意味用法では使われないこと、②述定は、すべて主体である名詞の内包している性質・属性を表わすものであること、③「明るい」の比喩的な意味を表わす場合には、装定にしか使われないことを指摘している。また、量的調査においては、「明るい」は装定の用例が全用例の半数以上を占めること、述定と比較すると3倍近くの用例数であることを示している。

本稿は、形容詞「明るい」の意味分析自体を行うことを主眼にしていないため、意味について記述する際には、先行研究の言及を参考にする。また、述定よりも装定が多いことから、装定のみを調査の対象とするものとした。

## 5. 調査と分析

### 5.1. 新聞における「明るい」の主体となる名詞

まず、新聞における属性形容詞「明るい」が修飾する語、すなわち主体となる名詞の全体の傾向を調べるために、『CD- 毎日新聞データベース』[1)] より、2011年～2015年までの5年分を対象に、「明るい」（辞書形のみ）をキーワードとしてKWIC検索を行った。

検索した結果より、N-gram を用いて、「明るい」の後続の1～5字の文字列の範囲から有意味の語を抽出した結果、2446例の用例が得られた。頻度順に、順位50位までの語を示したものが表2である。

表2より、最も多かったのは「未来」（149例）で、次に「話題」（147例）、「表情」（139例）、「兆し」（109例）と続く結果となった。頻度順位10位までの語について、楊（2016）の意味別にみると、「物事の与える感じ・印象」（未来、話題、兆し、材料、ニュース）と「人間の心理状態・性格」（表情、性格、声、笑顔）の二種が上位を占めており、「物事の属性」にあたる視覚

〈表2〉　新聞5年分における「明るい」の主体となる名詞（上位50語）

| 順位 | 主体となる名詞 | 頻度 | 順位 | 主体となる名詞 | 頻度 | 順位 | 主体となる名詞 | 頻度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 未来 | 149 | 16 | 展望、［コト・モノ］、子 | 29 | 36 | 夢 | 9 |
| 2 | 話題 | 147 | 19 | 人 | 23 | 37 | 陽光、色調、部屋、部分、年、動き、口調、曲調、歌声、印象、イメージ、日、歌 | 8 |
| 3 | 表情 | 139 | 20 | うち | 21 | | | |
| 4 | 兆し | 109 | 21 | 話、キャラクター | 19 | | | |
| 5 | 性格 | 102 | 23 | 場所 | 18 | | | |
| 6 | 材料 | 101 | 24 | 色彩 | 17 | 総計 | 2446例（509種） | |
| 7 | ニュース | 95 | 25 | 顔、見通し | 16 | | | |
| 8 | 色 | 79 | 27 | 選挙、人柄 | 14 | | | |
| 9 | 声 | 74 | 29 | 将来 | 13 | | | |
| 10 | 笑顔 | 54 | 30 | 社会 | 12 | | | |
| 11 | 光、雰囲気 | 39 | 31 | 空間 | 12 | | | |
| 13 | 気持ち | 35 | 32 | 気分 | 11 | | | |
| 14 | ［人名］、希望 | 31 | 33 | 作品、ところ、家庭 | 10 | | | |

的な明るさを表わす語は、「色」のみであった。

次に、共起する2語の結びつきについて検討する。橋本（2007）は、名詞「顔」と共起する形容詞の調査の中で、名詞と形容詞の結びつきの強さを測るための指標として「共起頻度比」を算出している。共起頻度比は、中心語と共に用いられた共起語の頻度を、共起語の単独頻度（共起語総頻度）で割って算出する。表2にて共起頻度100以上の上位6語について、共起頻度比およびイ形容詞との共起頻度比を算出し、イ形容詞の共起語頻度比順に並べたものが表3である。イ形容詞との共起頻度比を算出したのは、どのような形容詞と結びつきが強いかについて見るためである。

なお、新聞5年分では共起語総頻度が多かったため、表3では2011年の毎日新聞より得た結果のみ示している。表3を見ると、いずれも共起語総頻度が高いため、共起語頻度比は8％未満であったが、イ形容詞の共起語頻度比順にみると、「兆し」（94.7％）「話題」（79.2％）「材料」（77.8％）という順序になった。これら上位の語は、イ形容詞の中では「明るい」と強固な結びつきを持っているといえる。

〈表3〉　頻度上位6語における新聞一年分の共起頻度比

| 共起語 | 共起頻度 | 共起語総頻度 | 共起語頻度比 | 形容詞共起総頻度 | 形容詞共起頻度比 |
|---|---|---|---|---|---|
| 兆し | 18 | 228 | 7.9 | 19 | 94.7 |
| 話題 | 42 | 1091 | 3.8 | 53 | 79.2 |
| 材料 | 14 | 1040 | 1.3 | 18 | 77.8 |
| 性格 | 18 | 352 | 5.1 | 40 | 45 |
| 未来 | 28 | 1471 | 1.9 | 69 | 40.6 |
| 表情 | 26 | 2143 | 1.2 | 322 | 8.1 |

### 5.2.　新聞以外の資料における「明るい」の主体となる名詞

5.1 節では、新聞資料における「明るい」が修飾する名詞について見たが、新聞以外の資料においてはどのような様相を示すだろうか。概観のため、NINJAL-LWP for BCCWJ（以下、NLB）[2] で「明るい」を検索し、新聞資料と異なる点があるかについて確認した。NLB では著作権上、BCCWJ に含まれる新聞が含まれていない。パターンで見ると、「明るい」＋名詞の頻度は 2590 例となっており、明るいが修飾する名詞をコーパス全体の頻度順（MI スコア 5 以上）で見ると、色（126 例）、声（112 例）、ところ（71 例）、光（67 例）、未来（58 例）となっており、楊（2016）でいう「物事の属性」のものも多い結果となった。また、資料の性格上、取り上げる話題が近いと思われる「広報誌」「白書」「国会会議録」の 3 つのサブコーパスを対象に、100 万語あたりの頻度による結果を高頻度順に 5 語ずつ並べたものが（3）である。

（3）広報誌（OP）：社会、選挙、未来、色、家庭
　　白書（OW）：動き、暮らし、兆し、炎、もの
　　国会会議録（OM）：展望、方向、見通し、未来、社会

「未来」「社会」「色」「兆し」「展望」「見通し」など、新聞の調査においても頻度上位であった語が並ぶが、新聞において頻度・形容詞共起頻度比がともに高かった「話題」はない。NLB で「明るい話題」を検索すると、わず

か24例と数は少ないが、その中でも、100万語あたりの頻度で見ると、広報誌が最も高い（0.77）。

毎日新聞コーパスにおいては、コーパスの総語数が分からないため、MIスコアやTスコアといった統計的指標を用いることができず、単純な比較は難しいが、報道・報告することを目的とした文章においては、「明るい」と「話題」は、特徴的な結びつきがあるのではないかと思われる。

そこで、次項より、「明るい話題」というコロケーションについて用例を観察していく。

## 5.3. 「明るい話題」の分析

### 5.3.1. 「明るい話題」と共起する表現

2011年～2015年の5年分の毎日新聞より抽出した「明るい話題」という句が、どのような表現と共起しているのかについて、前文脈、後文脈に分けて観察を行った。以下にある程度数が得られたものを挙げていく。

＜前文脈＞

○久々に／久しぶりに～（20例）

（4）近年、少子高齢化などの影響で鉄道の輸送人員は減少傾向にある。「大阪駅リニューアルは久々に 明るい話題 。　（2011/4/30社会面）

○暗いニュース／話題（6例）

（5）国の特別天然記念物トキ。新潟県佐渡市で放鳥したペアから2世が誕生し、4月23日は各紙1面で大きく扱いました。車の暴走や竜巻など、暗いニュースが相次ぐ中、ひな誕生はワクワクする 明るい話題 です。（2012/5/18家庭面）

○数少ない／少し（3例）

（6）直売所の人気は数少ない 明るい話題 で、直売コーナーを設置している店舗がほとんどだ。しかし人気の店舗も耐震基準に合わず、再建費用を考えると閉鎖しかないと聞いた。コーナーに野菜を出しているじいちゃんばあちゃんはとても残念がっている。　（2013/12/16社説）

＜後文脈＞

○～を提供する／届ける（39例）

（7）明るい話題 を提供するのが使命でありながら、被災地・仙台で生活を送る現実もあった。「ユニホームに着替えれば野球に集中していた。ただ、空港に行く道路や新幹線から見える景色で、まだまだ復興していないんだなと。そういう思いを何年も持ち続けていくことが大事」。

（2012/3/12スポーツ面）

（8）観客席からは大きな拍手が湧き、楽天の星野仙一監督（64）は「涙が出た」。被災地に 明るい話題 を届けるため、選手たちは全力プレーで戦い抜くことを誓った。（2011/4/3社会面）

○～たい、～ほしいなど願望を表わす表現（15例）

（9）猛暑の後は巨大台風、まるで日本が熱帯地方になってしまったかのようです。昨年から自然も社会もなんとも不安定です。年末にかけて 明るい話題 が欲しいですね。（2012/10/5家庭面）

○～が少ない、～がない（8例）

（10）宮城県南三陸町の幼稚園や保育所では、歌やダンスの体験会を開いている。町立志津川保育所では震災前より子どもが30人以上減ったが、工藤和貴子所長（60）は「妃乃さんが歌うと、すぐにみんなが笑顔で歌い出す。 明るい話題 が少ない中、夢をもらっている」と話す。（15/3/9社会面）

○～が、一方でなど逆接を示す表現（7例）

（11）アベノミクス効果（？）で景気が好転し、2020年東京五輪開催が決まるなど、 明るい話題 のあった今年。一方で、領土問題がきな臭さを増し、ねじれを解消した安倍晋三政権が特定秘密保護法を強行成立させるなど、先行きの不安が増した年でもあった。

（13/12/26総合面）

それぞれの項目を複数含むものもある。これらの例を見ると、「暗い」出来事やニュースが多い中で、「久々の」「明るい話題」となった、あるいは、

「明るい話題」が「少ない」ために、「提供したい」「ほしい」というような希望・期待をこめた文脈が目立つように思われる。その一方で、一年の総括などの文脈において「明るい話題」となる事柄を紹介した上で、「一方で」といった接続詞を用いて対比的に、今後の懸念や問題点の指摘、世相の不安定さを本題として示すという書き方も見られた。

また、2011 年～ 2015 年の 5 年間の「明るい話題」の用例数の頻度を見ると、42 例（2011 年）、25 例（2012 年）、31 例（2013 年）、28 例（2014 年）、2015 年（21 例）となっており、新聞資料の年ごとの総語数が分からないため厳密なことはいえないが、単純にみると 2011 年の用例が多いといえる。2011 年に起きた大きな出来事といえば、東日本大震災が挙げられる。このことをふまえて用例を見ると、（7）や（8）には「被災地」、（10）には「震災」という語が文脈内に用いられており、話題も東日本大震災のあった東北地方についての言及がある。5 年分の用例から「被災」を検索すると、「明るい話題」とともに用いられている記事は 19 件、「震災」は 16 件となっており、「被災地」や「被災者」へ「明るい話題」を「提供」することが記事の内容として書かれていると考えられる。

ここから、震災などの「暗い」出来事が続いている中で、数少ない「明るい話題」に焦点を当てるという構図があると思われる。

### 5.3.2.「明るい話題」のトピックとなる内容

次に、何を「明るい話題」としているのかについてみる。「話題」を修飾する場合の「明るい」の意味は、楊（2016）によれば「表現内容や、芸術作品などが、深刻ではなくて、受け手を楽しく朗らかな気分にさそうような性質」を表わすとされる。つまり、「明るい話題」としてまとめられているものは、「楽しく朗らかな気分にさそうような」話題であるといえる。

5 年分の新聞から得られた「明るい話題」を大まかに分類すると、野球、サッカー、あるいはオリンピックなどでの選手の活躍や、国際試合の出場決定、試合開催などの「スポーツ関連」を示すものが最も多く、約半数（70

件）を占める。次いで、世界遺産登録や観光業への注力、道路開通などの「地域の活性化」に関わる内容（17 件）、具体的な内容についての言及がないもの（15 件）、ノーベル賞、人間国宝認定などの「受賞」に関わるもの（15 件）、休業していた事業・施設などの再開や新たな事業立ち上げなどの「事業などの再開・立ち上げ」（8 件）、人間や動物の出産やキャラクターの誕生に関わる「出産・誕生」（8 件）、芸能人の活躍や文化的なイベントの開催などの「芸能・文化」（7 件）、賃金上昇などの「景気回復」（4 件）のように分けられた。

より抽象的にまとめると、〈何かが始動・誕生すること〉、〈人が活躍すること〉、（活躍の結果）〈評価を受けること〉、地域や経済などが〈活性化すること〉などが「明るい話題」の要素になりうると思われる。

とくに、スポーツ関連の話題が「明るい」ものとして取り上げられているのは、〈活躍〉〈評価〉と、応援や誘致のために人や地域が〈活性化〉する、というように、これらの要素を複数含むためとも考えられる。「明るい話題」を「提供したい」というように所信表明をしたり、あるいは「提供できた」と自己評価したりしているのは、スポーツに関わる文脈であることが多い。加えて、（7）で示した用例のように、選手の発言から「明るい話題を提供するのが使命」と書かれている記事もあり、新聞においては、「スポーツ」が「明るい話題」の中心的な事柄として描かれていることが読み取れる。

### 5.3.3. 毎日新聞25年間における用例数の推移

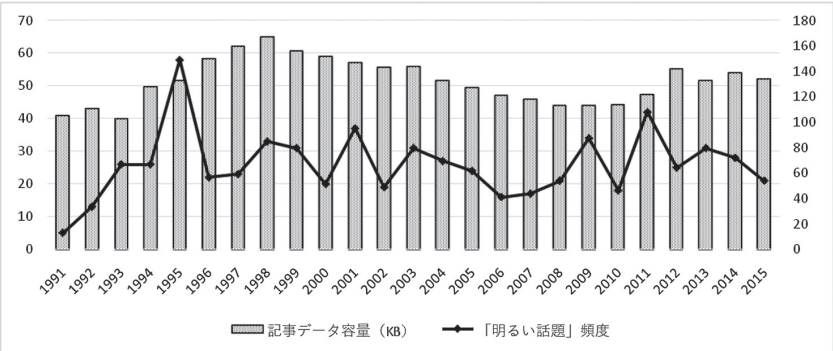
5.3.1 では、2011 年に用例数が多いこと、震災という出来事を受けて、数少ない「明るい話題」に焦点を当てるという構図がある可能性について示した。この点について検討するために、調査対象とする資料の年数を増やし、「明るい話題」の経年的な用例数の推移をみる。

1991 年から 2015 年までの 25 年間の毎日新聞における、「明るい話題」は 648 例であった。各年の推移をまとめたものが以下の表 4 と図 1 である。新聞コーパスでは総語数が不明のため、参考までにそれぞれの年毎の記事ファ

イルの総容量（KB）[3] も併せて示している。

〈表4〉　25年間の「明るい話題」の用例数および年毎のデータ容量（KB）

| 年 | 頻度 | データ容量 | 年 | 頻度 | データ容量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1991 | 5 | 105 | 2004 | 27 | 133 |
| 1992 | 13 | 111 | 2005 | 24 | 127 |
| 1993 | 26 | 103 | 2006 | 16 | 121 |
| 1994 | 26 | 128 | 2007 | 17 | 118 |
| 1995 | 58 | 133 | 2008 | 21 | 113 |
| 1996 | 22 | 150 | 2009 | 34 | 113 |
| 1997 | 23 | 160 | 2010 | 18 | 114 |
| 1998 | 33 | 167 | 2011 | 42 | 122 |
| 1999 | 31 | 156 | 2012 | 25 | 142 |
| 2000 | 20 | 152 | 2013 | 31 | 133 |
| 2001 | 37 | 147 | 2014 | 28 | 139 |
| 2002 | 19 | 143 | 2015 | 21 | 134 |
| 2003 | 31 | 144 | | | |




〈図1〉　毎日新聞25年間の用例数の推移とデータ容量

表4・図1を見ると、1991年から2015年までの間増加の一途をたどる、といった変化ではなく、年毎にばらつきがあることがわかる。具体的には、1995年、2001年、2009年、2011年に突出して多くなっている。これらの年

に記事データの分量が増えているということは特になく、文字数と頻度が比例しているわけではないといえそうである。言語外的要素ではあるが、1995年には阪神大震災と地下鉄サリン事件、2001年にはアメリカ同時多発テロ、2009年には新型インフルエンザの流行と世界同時不況、2011年には前述の通り、東日本大震災が起きている。重大な事件が発生していることと、「明るい話題」の使用との間に、明確に相関があるのかどうかは詳しく調べる必要があるが、重大な出来事によって「明るい話題」が少なくなったということを描写する、あるいは、少ないために「明るい話題」を提供したい、という流れになるということは十分に考えられる。

最も出現頻度が高かった1995年の「明るい話題」では、以下のような用例が見られた。

（12）香川からは観音寺中央高校が初めての切符を手にしました。担当の女性記者は前日に阪神大震災の出張応援から高松支局に帰ったばかりです。阪神間で取材を続けた彼女は「被災地の人々に少しでも 明るい話題 が提供できれば」と、今度は白球のドラマを追いかけます。復興の着実な足音が待たれる春です。（95/2/22 社会）

（13）女子外国招待のエレナ・マイアー（南アフリカ）、テクラ・ロルーペ（ケニア）はまず、阪神大震災の被害に対して悲しみの気持ちを表した。「非常に心を痛めている。ここ東京から 明るい話題 を提供できるように頑張りたい」と、一昨年優勝のマイアー。（95/1/21 スポーツ）

（14）イチロー、NOMOの活躍と 明るい話題 はあったものの、阪神大震災に始まり、地下鉄サリンなど一連のオウム真理教事件、沖縄の米兵女児暴行事件と暗いニュースが続発。加えて不景気のさなか、銀行や信用組合の経営破たんと世情騒然とする戦後五十年の年も残すところあとわずか。（95/12/23　家庭）

これらの用例を見ると、「数少ない」「明るい話題」として、野球選手の活

躍、地元高校の甲子園出場等、「スポーツ」に関する話題が多く挙げられているほか、明るい話題を「探したい」、「提供したい」、などといった語も見られる。例に挙げたもの以外では、明るい話題として、選挙の当選、改革、APECの開催、復興へ進む道のりなどが取り上げられていた。

5.3.1項でも少し触れたが、「明るい話題」という表現が用いられる際には、逆接の表現や「暗い」という語を用いることで、「明るい」と対比的な概念を意識した書かれ方がされているように思われる。つまり、取り上げる記事の中の表現したい事柄の裏には、対比となる「暗い現実」があることが読み取れるということである。

新聞報道という面において、被害者や被災者が出るような、重大・深刻な事件・災害・事故が発生した年は「暗い現実」であり、それを払拭するための「数少ない」話題の代表的な存在である「スポーツ」について言及されるのである。こうした報道が繰り返し行われることで、「スポーツ」は明るい、元気をもたらす、応援すべき存在であるというイメージが生産されていき、同時に「明るい話題」を提供しうるものと印象づけられていく。本来、運動や競技は感動を与えることを第一の目的にしたものではないと思われるが、こうしたイメージの定着により、選手は、「明るい話題」を「届ける」存在へとなっていくと考えられる。

## 6. まとめと今後の課題

本稿では、「新聞コーパス」を「新聞の言説コーパス」と捉える立場から、新聞テクストにおける語の使用の観察を通して、日常語に潜むイデオロギー的な側面を見出すことの試みとして、評価性を表わす形容詞に着目し、新聞における「明るい」という形容詞の使用、とくに、「明るい話題」という句が指す内容とはどのようなものかについて分析を行った。

「明るい話題」は、明るい話題を提供する・提供したい、明るい話題が少ない、というように、あるニュースが、世の中への希望を持たせる役割を担

うような形で紹介される際に用いられていると思われる。そのニュース以外に明るい話題が少ない＝世相や世間が暗い、というような図式である。そして、そうした場合、「明るい話題」となりうる要素として、〈何かが始動・誕生すること〉、〈人が活躍すること〉、（活躍の結果）〈評価を受けること〉、〈活性化すること〉などがあると考えられ、具体的な「明るい話題」の題材としては「スポーツ」が選ばれやすい。

新聞が「明るい話題」について言及するときには、「暗い世相の中で唯一の光がみえる」というような構造、つまり「深刻なニュースや暗い世相の中で、希望を持てるようなニュースを示す」という報道の意図を示す際に選択されると考えられる。

「明るい話題」の「明るさ」を決めるのは、本来主観的なもののはずであるが、新聞など、事実や出来事の報道を目的として作られた媒体では、記者の主観を強く前面に出すことはあまりない。そこで、ある種の社会的な基準を設け、「明るい」ものとしては、スポーツ、日本人の活躍、評価…などを挙げ、それと対比させて世相などを「暗い」ものであるという前提を説明する、客観的な評価であるかのように記述しているのではないかと考えられる。

これが何度も使用されていくことで、形式化し、「明るい」とされた話題が、記者の主観ではなく、世間にとって明るい話題であるように書かれている可能性がある。

本稿では特に「明るい話題」にのみ注目して分析を行ったため、「暗い話題」との対照や、特徴的な結びつきと思われる「明るい兆し」などについても検討していくことで、新聞における「明るい」「暗い」の使用について傾向を明らかにしていきたいと考えている。今後の課題としたい。

［注］

1）　本資料は、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座が毎日新聞社と交わした利用許諾契約・覚書に基づいて使用したものである。
2）　国立国語研究所と Lago 言語研究所が開発した NINJAL-LWP for BCCWJ（https://nlb.ninjal.ac.jp/）を利用した。
3）　全角1文字2バイトと考えると、大まかな文字数が推測できる。

［参考文献］

石井正彦（2004）「コーパス言語学と『キーワード』」『月刊言語』33（12）, 90-91.
石井正彦（2010）「日本語コーパス言語学の新展開」『日本言語文化』16, 5-21.
石井正彦（2014）「第4章　多様なコーパスの可能性」田野村忠温編『講座日本語コーパス6コーパスと日本語学』pp.69-101, 朝倉書店
石井正彦（2019）『探索的コーパス言語学　データ主導の日本語研究・試論』大阪大学出版会
西尾寅弥（1972）『形容詞の意味・用法の記述的研究』（国立国語研究所報告 44）秀英出版
橋本和佳（2007）「名詞とそれを修飾する形容詞の関係」『日本語学』26（12）, 38-46.
前川喜久雄（2008）「KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の開発」『日本語の研究』4（1）, 82-95.
八亀裕美（2008）『日本語形容詞の記述的研究―類型論的視点から―』明治書院
楊　婧瑋（2016）「形容詞の述定と装定について―「明るい」を中心に―」『国語学研究』55,103-117, 東北大学大学院文学研究科国語学研究室.
Stubbs, M.（2002）*Words and Phrases: Corpus Studies of Lexical Semantics.* Blackwell.
（= 2006, 南出康世・石川慎一郎（監訳）『コーパス語彙意味論―語から句へ―』）

［辞典・資料等］

『岩波国語辞典　第八版』
『三省堂国語辞典　第七版』
『CD-毎日新聞データ集』'91年版～2015年版

（文学研究科助教）

SUMMARY

## Usage of Adjectives in Japanese newspapers: Studying "Good News"

Kana Tojo

This paper sought to analyze a newspaper corpus as a discourse corpus of the mass media by focusing on adjectives. To this end, it analyzed the use of the adjective *akarui* 'blight' in newspapers, especially regarding what the phrase *akarui wadai* 'good news' refers to.

In this paper, five years of newspaper articles were searched using *akarui* as a keyword, and the words were extracted with the highest frequencies of occurrence. Next, I calculated the frequency ratio of adjective collocations in newspaper articles over one year, finding "sign", "topic", and "personality" to be the words with the highest frequency and co-occurrence frequency ratio. Of these, "topic" was the most frequent usage in newspapers, suggesting that "bright topic" is a collocation characteristic of newspapers.

The usage examples of *akarui wadai,* showed that it co-occurred with expressions such as *hisabisano* 'after a long time', *kurai* 'dark', *kazusukunai* 'few', and *teikyousitai* 'want to provide'.

The most common uses of *akarui wadai* were those related to sports. Other topics included those related to regional revitalization, awards, resumption/start-up of business, births, entertainment/culture, and economic recovery.

Turning to the changes in the number of examples over time, there was a trend for the use of *akarui wadai* to increase in years when there were serious disasters or incidents. This suggests that when newspapers refer to *akarui wadai,* it is with the intention of presenting news that gives hope amid serious news.

The judgment of what constitutes good news is supposed to be subjective, but in newspapers, the subjectivity of the reporter is not often strongly brought to the fore. Therefore, it appears that newspapers set some kind of a social standard, decide on a subject that is good news, and present the premise that the world is gloomy in contrast to it. As this is used repeatedly, it may become formalized, and the topics that are considered bright may be written as if they would be accepted universally as good news, rather than according to the subjective views of the reporter.